

平成28年度調査研究活動実績

議員名 高橋 徹

① 鏡川及び県内河川環境向上に向けての調査研究

鏡川の上流部は平成26年8月の記録的な集中豪雨被害の傷跡が未だ癒えない。特に上流での山崩れによる土砂の流出が、この他多く元の河川環境には10年近くは要すると考えられる。現状は、淵がほとんどなくなり、浅瀬となっている。その為アユの居場所がなくなっている。当然他の河川についても同様の状況が見受けられる。

改善の方策は、要所要所で土砂の浚渫をし、以前の河川環境に近づけていく事が必要と考える。また平成28年8月の豪雨で太陽光発電施設の土地利用計画の中で、工事中において急な斜面での豪雨による大量の赤土が流出し、上流部において大きな被害をもたらせた。この事は漁協・地区住民・行政が一体となって対策に乗り出した事から改善策を講じる事ができた。又長年鏡川における環境対策として、27年・28年と2ケ年に亘って鏡川水系環境保全対策協議会の調査研究を取りまとめ、県・市のそれぞれの行政長に提言書を提出する事ができた。具体的には、中長期に亘って取り組まなければならない問題もあるが、全てが解決の方向に進めば素晴らしい環境の鏡川が誕生する事となります。

② 道路等の整備について

国道・県道・市道・農道等、県民からの情報提供と自ら視察調査を行い、安全・安心のための道路整備についての改善策等を担当部署に情報提供を行う。特に長年の件案であった旭街福井線については、29年秋には全線開通となる。又国道33号電車通りの中須賀から鏡川橋までの区間の1.5kmの区間については、高知市が関係する土地の境界確認の予算処置を行う事となり、これにより長年の悲願であった拡幅工事が事実上の着手となった事が大きな成果であります。

③ 観光振興調査研究

高知城・桂浜を中心とした県外観光客誘致の現状と課題について調査研究を行った。

400万人の観光客は定着しつつあるが気を緩める事なく次から次へと効果的なイベントを展開する必要がある。県民が一つになっておもてなしの心を持ってお迎えをする事が大切である。又、連泊での宿泊客を誘致するには、温泉旅館を桂浜などに総合的に整備する事の必要性を強く持った。そして食の魅力を今まで以上にPRする事も効果的であると思っているので、その点についても更に研究提言をして行きたい。

④ 木材の需要増による業界の発展について

高知県の森林率日本一のこれまでの取り組みが国政による活発な動きに繋がってきた。バイオマス燃料、CLTの開発研究による需要の拡大と大いに期待をしている所であるが、これまで低迷してきた業界である事から働き手の減少が深刻化している。県による人材育成も遅きに失した感はあるが何よりも林業で家族を養う事のできる所得水準を確保する事が強く感じている。

その為には、やはり木造建築つまり県産材による需要をもっともっと増やす取り組みを調査研究しなければならない。

⑤ 有害鳥獣被害対策について

これまでも狩猟期以外の有害鳥獣駆除にも力を入れてきた所であるが、狩猟者の減少が問題となっている。特に若者の狩猟に対する関心を持ってもらうためにあらゆる機会を通じて広報活動を行っているが更なる広報活動を展開する必要がある。イノシシ・シカの捕獲は年々伸びてきているので、これまでの県の取り組みを評価し、猟友会と一体となって、報償金の問題や狩猟を取り巻く環境を更に改善していく必要を感じている。

高知県では幸いにも他損による人身事故が発生しておらず、これからも事故のない狩猟現場となるよう徹底した指導を行っていく事が必要である。又、大日本猟友会では他損事故に多く見られる大粒散弾の禁止を29年度から導入する考えであるが、このことにより猟果が落ちる事が予想されますが、私は賛成の立場に立って禁止に期待する所である。